

# 夜間学校 ニュース

1986年10月3日  
西成区萩之茶屋2の  
8の9 旅路の里気付  
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の  
指紋押なつ拒否断固支持！  
定住外国人に市民権を

## 新小中学校跡地利用を考える

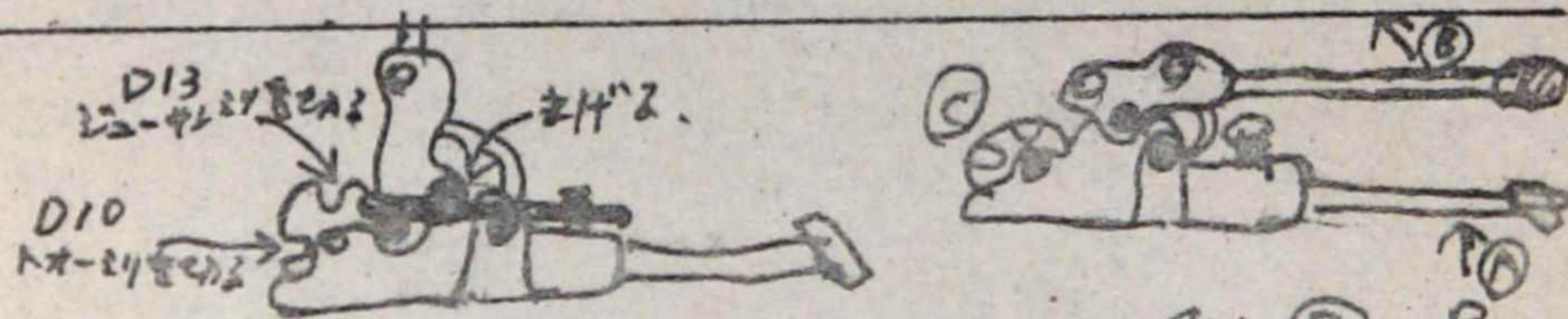
### 子どもとどうつき合おう？

先週の夜間学校のニュー  
スでは、萩之茶屋に住む子  
どもたちの半数が、大人を  
こわいと思ったことがある  
と答えたことを紹介した。  
その前の週には、たまた  
ま出会った子どもに金をと  
えたり、一緒に遊んだりし  
たことのある仲間が以外に  
たいことを紹介した。  
この二つのことをつき合  
わせること、大人と子ども双  
方ともに自己中心的である

側面がうかびあがる。  
子どもは、こづかいをせ  
びぬるとき、もらうときは  
なれなれしくするが、そう  
でないときはつめたくあし  
らう。  
大人もその場のふんいき、  
なりゆきまかせで、子ども  
に金を与えたりする。  
で、双方の息がうまく合  
わない、すれちがったとき  
に、えてして、ちいさなも  
めごとがおこる。

## 鉄筋屋豆知識

スラブの配筋をしていて  
材料が足りなくなったらど  
うするか。生材も全くなか  
つたらそれまでだが、ナマ  
材がある場合は、その場で  
加工することになる。  
例えば、四半の片アンカ  
D10が足りなければ10ミリの四  
メートル五十のナマ材の片  
一方を折りまげる。  
たいがい、ライプアーを  
使う。  
右下がへタクソだがライ  
プアーの固、折して切るの  
でよく切り」とも言う。



① 足で押さえておく。  
② を上に引きあげ、  
垂直にする。  
③ のへっこに  
鉄筋をはさみこ  
み、②を下に押  
さげると切り  
る。  
まげるときは、  
上図のように  
鉄筋をはさみこ  
む。  
お。注意しはけりはなら  
ないことは、20センチの  
片アンカをまげる  
とき、鉄筋の直徑  
分だけ、ひかえること。

みんなでつくろう

みんなの 会館

三人よれば何とかの知恵

釜ヶ崎夜間学校

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

# 前回の報 放談・雑談・四方山話・切れ切れ満載

「へその一」  
「今が一番、ええ季節やな、働いていても汗は出さへんし、ちやうどええ。」

「いや、朝夕はかなり冷えこんでるし、寒いで、朝、センターに出るのがだんだんきつなってきた。」

「それに、仕事の方はもうひとつやなあ。」  
「夏過ぎて、仕事はたしかに出るようになったけど、去年よりは悪い。パツとせんない。」

「なんか、年々わるなってる感じがする。センターの2階の飯場求人なんかを見てると、つくづくそう思うわ。」

「へその二」  
「先週の水曜パトロールに参加した時のことやけど、むこうか

らパリツとした三千ブできめて足袋はいた、いかに職人風の三人組とすれちがった。これはシノギやなとピンときた。」

「水曜パトロールというのはギリスト教でやってるんやない。」  
「ピンときてもどうこうすることはちよっと無理やったけど、いざとなるとやっぱりこわいで逃げるようにパツとむこうの方へ行きよったけど。」

「最近ノックアウト強盗がつかまったとか新聞に出てたけど、肩書きは土木作業員とかになつてた。無職とかになつてることもある。」

「その辺の基準はどうなってるんかな。横浜の例の殺傷事件のときは人浮浪者やった。」

「新聞記者の発想としては自身

帳をもってるかどうかになるやろない。」  
「それに警察がどう発表したかにもよるな。」

「元とかをつけることもある。」  
「へその三」  
「セッキのパトロールやけど日本橋助でアオカンしてる人はかなり広域化というか、どんどん散らばっている感じやない。」

「地下鉄の動物園前の地下道の方にもぎょうさん寝てる人がおったけど、全部外へ追いださないとらしい。」

「東京でもへ自警団めいたものができて、アオカンもおちおちできん状況になつてる。」

「アナしもほとんどの人は切れてるやろない。」  
「よっぽどうまいこと残してる

人でも月曜(九月二十九日)までやろない。」  
「へその四」  
「一年程前に出た四十年前の日本国という字直集を見てたら塩釜市釜ヶ崎というところが出た。塩釜の離島のみささらし

いし。  
「珍しいことももあるもんやない。しかしあっちの方は釜のつく地名は多い。塩釜もそうやし、釜石、釜ノ沢、四釜、花釜、いろいろあるな。」

「もつと詳しく調べなあかんけど、もし製塩と関係があるんやったら、釜の地名の由来について昔から言われてたへ塩焼釜のある崎」というのが、まんざら

当推量でないことになると。ひとりの傍証にはなると思う。」